

建設技術展等の開催報告

「建設技術フォーラム 2017 in 広島」の開催について

国土交通省 中国地方整備局 企画部 技術管理課 みづなが いさお
水永 勲

1. はじめに

中国地方における建設技術フォーラムは、中国地方の社会資本整備の現状と必要性および効果、これらを支える新技術について必要な情報交換を行い、開発・活用普及促進を図ることを目的として、従来までの「国土建設フェア」から「建設技術フォーラム」に名称を変更し、平成 21 年度より開催しています。建設技術フォーラムの開催にあたっては、産学官より構成される「建設技術フォーラム実行委員会」（民間 25 団体，7 大学，行政 10 機関）が主体となり、運営方法，出展内容，広報などの方針を決定し，円滑な運営を図りながら進めています。

今回の建設技術フォーラムは，前回から引き続き，建設現場における生産性を向上させ，魅力ある建設現場を目指す新しい取り組みである「i-Construction」をメインテーマとして，i-Construction に関連する基調講演や技術展示など，建設現場で実施している旬な取り組みを紹介しました。また，老朽化対策や危機管理，環境対策に係る建設技術の展示，セミナー発表を行い，建設業界だけでなく広く一般の方にも中国地方の社会資本整備を支える建設技術等の紹介を行いました。

2. 建設技術フォーラムの概要

開催日時：平成 29 年 11 月 10 日（金）

10：00～16：00

平成 29 年 11 月 11 日（土）

9：30～15：30

開催場所：広島中央公園（広島市中区基町）

テーマ：「地域づくりを支える建設技術 ～広がる『i-Construction』～」

出展者数：屋外展示 4 ブース

屋内展示 72 ブース

（1 大学，12 団体，63 社）

主催：建設技術フォーラム実行委員会

（協賛）：（一社）中国建設弘済会，（一財）橋梁調査会，（一社）建設コンサルタンツ協会 中国支部，（一社）全国上下水道コンサルタンツ協会 中国・四国支部，（一社）全国道路標識・標示業協会 中国支部，（一社）日本埋立浚渫協会 中国支部，（一社）日本橋梁建設協会，（一社）日本グラウト協会 中国支部，（一社）日本建設機械施工協会 中国支部，（一社）日本建設業連合会 中国支部，（一財）日本建設情報総合センター 中国地方センター，（公社）日本測量協会 中国支部，（一社）日本電設工

業協会 中国支部, (一社) 日本道路建設業協会 中国支部, PC フレーム協会・KTB 協会 中国支部, (一社) プレストレスト・コンクリート建設業協会 中国支部

来場者数：2日間延べ約 2,300 人

■実施内容

① オープニングセレモニー

建設技術フォーラム実行委員会 福留実行委員長と中国地方整備局 川崎局長による開会の挨拶に始まり、広島県土木建築局建設企画部 宮本部長、広島市都市整備局 山地局長、(一社) 中国建設弘済会 菅原理事長らによるテープカットにより開会となりました(写真-1, 2)。

② 基調講演

今回の建設技術フォーラムより、基調講演をプログラムに組み込み、i-Constructionに関連する2つの講演を実施しました。

まずは、「最近のi-Constructionの動向」と題して、国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 施工安全企画室 近藤弘嗣課長補佐から、ICT活用の効果検証結果や今後の展開など、i-Constructionの取り組みについて幅広くお話しいただきました(写真-3)。

続いて、「災害時の『i-Construction』最前線」と題して、国土交通省 九州地方整備局 九州技術事務所 島本卓三所長から、平成28年熊本地震により発生した大規模な斜面崩壊の現場において、ICTを活用した技術を導入して緊急対策工事を成し遂げた事例などについてお話しいただきました(写真-4)。

どちらの基調講演も、会場が来場者でいっぱいとなり立ち見が出るなど、来場者の関心の高さが伺える講演となりました。来場者からは、「i-Constructionの現状や今後の展開について、とても参考となった。」「実際の被災現場で携わった方の講演は説得力があった。」など、多くの感想をいただきました。



写真-1 川崎局長による開会挨拶



写真-2 テープカットの様子



写真-3 基調講演①



写真-4 基調講演②

③ 技術展示

屋内ブースは、会場である広島中央公園に大型テントを設置し、一般の来場者に分かりやすいように出展ブースを1. 安全安心（危機管理・老朽化対策）、2. 生産性向上（i-Construction）、3. 環境・その他のテーマごとに分けて配置しました。ICTやCIMなどの最新の情報のほか、維持管理に関する技術紹介など幅広い出展により、数多くの建設技術の紹介ができました。

また、フォーラム初日には工業高校の生徒に会場いただき、建設業界の現状や取り組みなどを紹介することにより、これからの将来を担う子ども達に社会資本整備の必要性を紹介することができ

ました（写真－5）。

屋外ブースでは、出水時の現場で活躍している排水ポンプ車、冬期に活躍している除雪トラックや凍結防止剤散布車の展示、ICT建設機械によるデモンストレーションを行いました。来場された方々に、日常生活では接することができない建設機械に実際に触れていただきました（写真－6）。

また、非常時の疑似体験を通じた防災意識の向上を目的として、降雨体験機（中国技術事務所）や浸水体験装置（協力：広島市江波山気象館）による体験コーナーを設けました。子ども達をはじめ、多くの来場者に楽しみながら体験していただきました（写真－7）。



写真－5 屋内ブースの様子



写真－6 屋外ブースの様子



写真－7 体験コーナーの様子（左：降雨体験，右：浸水体験）

④ セミナー発表

各企業・団体の開発技術についてプレゼンテーション方式で発表していただきました。今回は、老朽化対策や防災関係の発表など、計15社・団体が参加されました（写真－8）。



写真－8 セミナー発表の様子

⑤ 中国地方整備局の展示

中国地方整備局における i-Construction の取り組みを紹介するとともに、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活動や女性の感性を活かしたよりよいインフラ整備を目指す活動（くらしでミーティング）の紹介などを行いました。また、太田川放水路が完成して50周年の節目を迎えることから、これまでの歴史を振り返るパネルなどの展示も併せて行いました（写真－9）。



3. おわりに

新技術のさらなる普及促進に加え、建設業が果たす役割等を広くPRするため、引き続き今年も開催を予定しています。今回のフォーラムでは約2,300名の方々に来場いただきました。次回もより多くの方々に建設技術を知っていただくことができるように反省点を踏まえ、一般の方への広報など、より一層の工夫を重ねていきたいと考えています。

最後に建設フォーラムの開催にあたりご尽力いただきました関係者の皆様に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



写真－9 整備局ブースの様子